地球環境や人、社会、地域に配慮していこう！　エシカルレター
ethical letter
2021. 3. 20号

「Ｅｃｏ列車でいこう！」～第 139 回～　時間の止まった街

（CO２排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！）

　ちょうど１年前の２０２０年３月２１日（土）。全国的に新型コロナウイルスが流行りだして、不要不急な外出ができなくなった頃だ。

　前日に仙台で所用があり、通常なら高速バスで新潟に直帰するべきなのだが、ここまで来たら、震災以来９年ぶりに全線開通した「常磐線」の各駅を訪れたかった。

　良く晴れた朝、「帰宅困難地域」にある「夜ノ森（よのもり）」に到着。素敵な名前だ。過去に「東北の駅百選」に選ばれた駅の近くには「桜並木」がある。今は無人でひっそりとしている。

　次に訪れたのは「双葉」。駅舎は新築され、駅前にはカーシェアのサービスも始まった。ぱっと見は明るい印象だ。しかしそれもつかの間、駅前を散策すれば、ガラスが割れ、シャッターが壊れた店舗。朽ちた家。まさにゴーストタウンである。歩いていると１枚のポスターを見つけた。震災の２日後に開催予定だった「おどりのイベント」のようだ。この街は２０１１年３月１１日から時が止まっている。虚しさ、悲しさ、憤りなど、いろいろな感情が芽生える。

　再び電車に乗り、富岡町の「木戸」で下車。沿線を歩いてみることにした。どこにでもあるような、おだやかな「田んぼ道」をしばらく歩くと、大きなサッカー施設「Ｊヴィレッジ」が現れる。広々とした雰囲気に、気持ちが少し落ち着いてくる。家が増え始めて「広野」に到着した。

　その後、いわき市にある「湯本」駅にも寄った。ここは一大観光地。「スパリゾートハワイアンズ」の下車駅であり、多くの人でにぎわっていて、ホッとする。

　磐越東線で「郡山」へ。磐越西線に乗り換えて新潟に戻った。

　福島原発事故の最前線地域を訪れてみて、原発の必要性について改めて疑問を持った。

夜ノ森駅の横断幕

新築された双葉駅

双葉駅前のカーシェアステーション

双葉駅前の通りは、震災の日から時が止まったようだ。